



本人・家族の気持ちを知ろう

本人の気持ち

認知症の本人は、自分の変化に気づいています。もの忘れを認めたくなくて「忘れていない」と言ってしまう人もいますが、隠された複雑な思いをくんでください。

認知症の人からのメッセージ

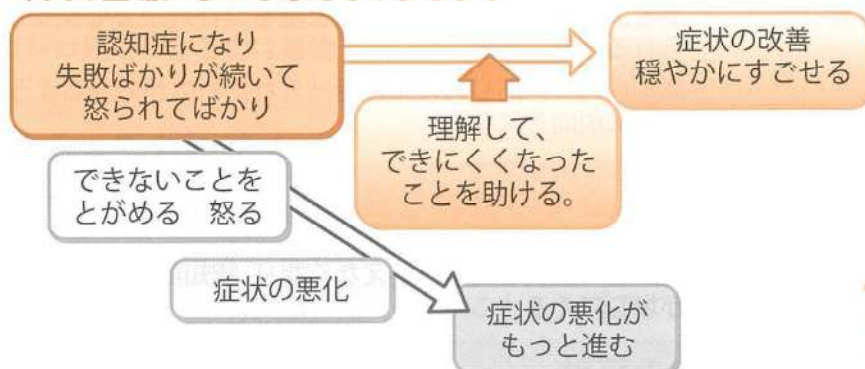
皆さんが話を聴いてくれないと、私達は話す努力をやめてしまうかもしれません。私達は同じ言葉を繰り返すことができないので、注意深く聴いてください。私達は一生懸命話そうとしますが、文法や構文が正しくなく、たどたどしい話し方になってしまうことがよくあります。どうか、伝えようとしている、その気持ちをくんでください。

クリスティーン・ブライデンさんの講演から

健康な人の心情がさまざまであるように、認知症の人の心情もさまざまです。「認知症の人」がいるのではなく、私の友人のAさんが認知症という病気になっただけです。友人としてすべきことは、認知症の人が困っていることを補いながら、今までどおり友人のAさんとしてつきあってください。町で困っている人がいたら手助けしてあげてください。

さりげなく、自然に接する、それが一番の援助です。

本人の立場になって考えてみましょう



認知症になっても、少しの支援でできることがたくさんあります。

*近所の人ができること

- ◆ 単身の場合ゴミ出し日に一緒にゴミを出す
- ◆ 買い物などに一緒に出かける
- ◆ 地域の行事に一緒に参加する
- ◆ 疲れすぎないように休憩がとれるように声をかける

*本人ができること

- ◆ 一度に2つ以上のことをしない
- ◆ 慣れないところでは誰かと一緒に行動する
- ◆ 疲れたら休む
- ◆ 無理せず誰かに頼む
- ◆ さまざまなサービスを利用する